

各位

上場会社名	東邦亜鉛株式会社		
代表者	代表取締役社長	伊藤 正人	
(コード番号	5707)		
問合せ先責任者	経理部長	藤原 圭吾	
(TEL	03-4334-7313)		

(訂正)「2026年3月期 (FY2025) 第2四半期 決算説明資料」の一部訂正について

当社は、2025年11月13日に発表いたしました表記開示資料について訂正がありましたので、お知らせいたします。
なお、発表済みの決算短信に訂正はありません。

1. 訂正の理由

記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、訂正するものです。

2. 訂正の内容

訂正箇所には下線__を付して表示しております。

・5ページ

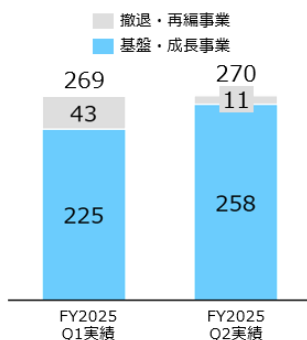
[訂正前]

2026年3月期 (FY2025) 四半期決算 (Q1→Q2) の概要

撤退・再編の進捗により撤退・再編事業の売上はゼロに近づいた一方、基盤・成長事業は円安や資源価格影響により増加しましたが、亜鉛製錬の残務費用の計上も軽減され、事業再生開始直後のQ1を損益のボトムとして、Q1→Q2で収益改善を実現しました

(億円)

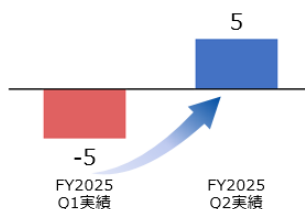
売上高



(Q1→Q2)

- ・円安傾向や資源価格上昇により基盤・成長事業の売上増加
- ・亜鉛在庫販売も概ね収束し撤退・再編事業は売上減少

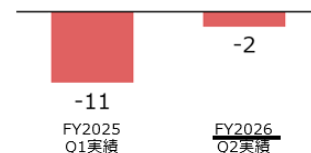
EBITDA



(Q1→Q2)

- ・円安傾向や資源価格上昇による収益改善。Q1で計上していた在庫評価損失の反動増
- ・亜鉛製錬の残務費用はQ1に計上が大きく、Q2においては計上が軽減。Q2までで概ね残務費用の計上は終了

当期純利益

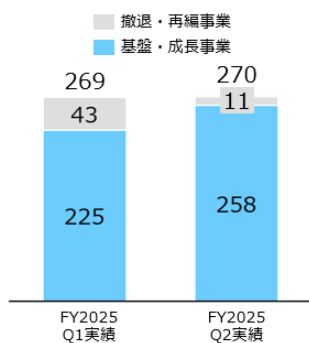


2026年3月期（FY2025）四半期決算（Q1→Q2）の概要

撤退・再編の進捗により撤退・再編事業の売上はゼロに近づいた一方、基盤・成長事業は円安や資源価格影響により増加しましたが、亜鉛製錬の残務費用の計上も軽減され、事業再生開始直後のQ1を損益のボトムとして、Q1→Q2で収益改善を実現しました

(億円)

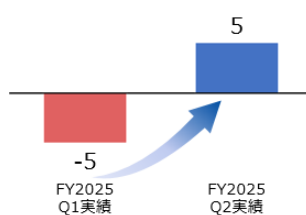
売上高



(Q1→Q2)

- 円安傾向や資源価格上昇により基盤・成長事業の売上増加
- 亜鉛在庫販売も概ね収束し撤退・再編事業は売上減少

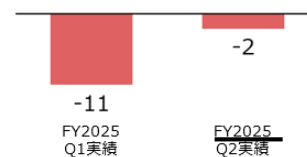
EBITDA



(Q1→Q2)

- 円安傾向や資源価格上昇による収益改善。Q1で計上していた在庫評価損失の反動増
- 亜鉛製錬の残務費用はQ1に計上が大きく、Q2においては計上が軽減。Q2までで概ね残務費用の計上は終了

当期純利益



TOHO ZINC CO., LTD.

5

以上